

第 2 回 榿原市保育所・幼稚園適正配置検討委員会 会議録

日 時：	令和 2 年 7 月 29 日（水）10：00～12：00				
場 所：	大和信用金庫八木支店 3 階第 1 会議室				
出席者：	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">委員</td> <td>天根会長、重松委員、松井委員、佐伯委員、榿谷委員、米川委員、柿本委員、廣井委員、戌亥委員、松本委員、森嶋委員、井上委員、中井委員</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">事務局</td> <td>事務局：教育長、吉田部長、藤井部長、竹本こども官、加護副部長、栗原副部長、北野副部長、吉川課長、太田課長、森下指導主事、上島課長、中渡指導主事 長谷川課長補佐、井岡指導主事、東浦主査 長大：依田</td> </tr> </table>	委員	天根会長、重松委員、松井委員、佐伯委員、榿谷委員、米川委員、柿本委員、廣井委員、戌亥委員、松本委員、森嶋委員、井上委員、中井委員	事務局	事務局：教育長、吉田部長、藤井部長、竹本こども官、加護副部長、栗原副部長、北野副部長、吉川課長、太田課長、森下指導主事、上島課長、中渡指導主事 長谷川課長補佐、井岡指導主事、東浦主査 長大：依田
委員	天根会長、重松委員、松井委員、佐伯委員、榿谷委員、米川委員、柿本委員、廣井委員、戌亥委員、松本委員、森嶋委員、井上委員、中井委員				
事務局	事務局：教育長、吉田部長、藤井部長、竹本こども官、加護副部長、栗原副部長、北野副部長、吉川課長、太田課長、森下指導主事、上島課長、中渡指導主事 長谷川課長補佐、井岡指導主事、東浦主査 長大：依田				
欠席者	委員 辰巳委員				
資料：	委員名簿（令和 2 年度 6 月版） 資料 01_諮問書 資料 02_第 1 回検討委員会の概要 資料 03_公立保育所・幼稚園の現状と保育ニーズについて 資料 04_適正配置を目指した対応策について 資料 05_今後の検討スケジュール 補足資料 01_榿原市執行機関の附属機関に関する条例 補足資料 02_榿原市保育所・幼稚園適正配置検討委員会規則 補足資料 03_榿原市審議会等の設置及び運営並びに会議の公開に関する要綱 補足資料 04_就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針【概要版】 補足資料 05_榿原市教育施設再配置基本方針【概要版】 補足資料 06_榿原市子ども・子育て支援に関するアンケート調査【結果報告書】 補足資料 07_0-5 歳人口の推移と推計 補足資料 08_榿原市就学前の保育・教育指針				
1. 開会	開会挨拶 資料確認 委員・事務局紹介				
2. あいさつ	教育長挨拶				
3. 議事	議事 1) 第 1 回検討委員会の概要について				
会長	<p>今まで 2 カ月に 1 回のペースでやってまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で少し期間が空いてしまいました。また委員の交代もあったようですので、今までの検討の概要について事務局から説明をお願いします。</p> <p>資料説明</p> <p>【資料 01 諮問書】</p> <p>【資料 02 第 1 回検討委員会の概要】</p>				
会長	<p>今の説明について質問ございますか。特に新しく委員になられた方には流れがつかみにくいと思いますので、ご質問によって流れをご理解いただけたらと思います。私の方から意見を申しますと、特に榿原市では園児が減少している。これは全国</p>				

	<p>的な傾向ですが、見方によっては、昨今の社会情勢や現状の数値から幼稚園が要るのかという、意見もあります。もう幼稚園は要らないのではないか、むしろ保育所が良いのではといったご意見もあります。幼稚園を存続するかどうか、存続するなら、人数的な面でうまく存続していくことが難しいと思います。</p> <p>また、ベビーブーム時期にできた幼稚園は国からの補助金があり、ほぼ同時期に建てました。当時は喜ばれましたが、今後、改築や次の施設整備を行うためには財政上の問題も現れます。予算を平準化し、どうにか改修しながら、社会情勢に応じて、子どもたちに対して充実した教育環境を整える方法として、園児児童が少ないところは統合して、環境を充実させた施設を作っていきたい。予算は効果的に使いたい。そういうふうな事務局の意見だと思いました。</p> <p>もう1つ、樫原市にはよそにはない特殊なものがあると捉えています。それは、私立の幼稚園と公立の幼稚園との関わりです。市が私立をかなり頼りにしてきた経緯があると思います。私立のほうが比重を多く持って保育事業に携わってきたという経緯がある。3歳児保育も私立の保育所のみで実施しています。</p> <p>いわゆる、棲み分けしてきたという経緯があります。現在は、公立幼稚園に余裕があるので、公立でも3歳児保育の体制を整えていったらいいのではないかという考え方です。</p> <p>また、3歳児の約半数が通園していないというデータでしたが、行っていない理由をある程度把握する必要がある。例えば、経済的な面であれば、私立へ入園することが難しい、こういったことも考えていく必要があると思います。</p> <p>本日の委員会は、私立と公立とのバランス、樫原市の特殊性を背景に、これから意見を出し合っていけたらと、会長として考えております。</p>
委員	<p>基本的なことをお聞きします。幼稚園と保育所の違い、幼保一体化の運営が事務的に難しくなっているという話ですが、どういう点であるか、教えてください。</p>
会長	<p>そのことについては私の方からご説明します。</p> <p>まず、概略的には法律的な違いです。幼稚園は文部科学省管轄で学校教育法に定められている施設です。保育所は厚生労働省管轄で保育を必要とする家庭の子どもたちを保育する目的で作られています。</p> <p>最近、保育所に対するニーズが増えています。また、保育所、幼稚園それぞれに教育的な差が生じてはならないという考えから、教育の差は薄れてきています。</p> <p>このようなこれまでの法律的な壁を越える方法がこども園です。ただ、当然一長一短あり、100%うまくいくという話ではありません。</p> <p>また、文科省と厚労省の基本的な差があり、予算確保などそれぞれに書類が必要であるなど、非常に事務系統が煩雑になることもあります。その他、事務局から何かありますか。</p>

事務局	<p>今回、樫原市就学前の保育・教育指針を配布しています。そのなかでも樫原市の就学前保育・教育につきましては、保育、教育目標や指導の重点など保育所、幼稚園ともに一貫した指針をつくって運用しています。</p>
会長	<p>他ありますでしょうか。</p> <p>それでは、その次の議論に入っていきたいと思います。</p>
事務局	<p>資料説明</p> <p>【資料 03 公立保育所・幼稚園の現状と保育ニーズについて】</p>
会長	<p>教育というのは、子ども一人一人の成長を援助していく指導というのが1つ。もう1つは、それぞれの異なる家庭の文化もある程度認識しながら、みんなで協調していく社会性を学ぶ。それを教育する。この2点が教育の目的です。</p> <p>この観点から指導、援助というのは、人数が少なければ少ないほどきめ細かくやれる。これは当然の話でして、1人の先生が1人をマンツーマンで見たら、1人で20人やるよりも一人ひとりの成長には大いに結構なことである。</p> <p>一方、社会化するという面につきましては、これは人数が少なくなればなるほど難しい。どの程度まで行ったらどうなるか。私はいつもその点を調べています。</p> <p>納得しているのは、国の示す1学級をつくる人数、例えば小学校の場合でしたら、40人学級とし、41人になったら2つに分けてよろしいという発想ですから、最低20人は要る。例えば35人の学級編制基準であれば、36人になったら2つの学級に割ってよろしいというので、幼稚園の場合でしたら、最低が18人です。要は、少ないほうも多いほうも、国の基準は満たしてやりたい。多過ぎても教育は十分にできない。少な過ぎてもできない。だから、国の基準は教育をされる子どもたちには満たしてあげたい。それが大人の義務、そんな考え方ですね。</p> <p>それを基準にしたら、樫原市はこんな状況で、赤信号になってきそうだという報告をいただきました。</p> <p>まず、前半のことでご質問等ございませんでしょうか。</p>
委員	<p>これは、将来施設の数減らすと言っているわけですが、今の樫原市に求める子育て支援の充実内容のところ、保育園、認定こども園を増やしてほしい、幼稚園を増やしてほしいという意見がある。これはどういう対応をされますか。</p>
事務局	<p>これは、アンケートの中で、子育て支援の充実内容について聞いたところです。実際に保育園、保育所、認定こども園を増やしてほしいという意見と、一方で幼稚園を増やしてほしいという意見は、比率としては小さいですがございます。</p> <p>これは、子どもを預けなくては働けない家庭が増えていく中で、子どもの数は減</p>

	<p>少しているけれど、保育ニーズが大きく増えてきている社会的要因があると考えています。こういった状況から、保育所や保育園、認定こども園を増やしてほしいという意見が多く出てくるというのは納得できる場所と考えています。</p> <p>しかしながら、全て認定こども園あるいは保育園、保育所としてしまっているのかということ考えたときに、一方でやはり幼稚園を求める声もあるということを経務局としては受け止め、それを忘れずに進めたいと考えております。</p>
委員	<p>これは要するに、まだ周知徹底が、そこまでの危機感がないのではないかと思います。子どもがいるけども自分も働きたい。自分に都合のいい場所にあればいいという考えでこういう意見が出てきたのではと私は推測しています。</p> <p>そうであれば、まだ回答が少ないのではないかと。もう少し説明をしたら、みんなが理解するようになっていくのではと思います。</p> <p>特に小学校、中学校の場合はまだ全然、若い親が増えていかなければならないという気がします。</p>
会長	<p>今のご意見は、例えば後何年か経って、みんなが問題を認識したときに、なぜもっと早く対応してくれなかったのか、といった話が出てきたらということですが、かといって、今こうしますと言ったら、現状だけしか理解できないので、それは、うちの子に関係ないという話になってしまいます。そういう感情論的なところがよく出てくるのが今までのケースです。</p> <p>小学校でも児童が減ることに対して、山村留学とか、あるいは校区を合併したり分けたりということで、人数だけを揃えようとしたところにいるいろいろな失敗がありました。</p> <p>やっぱり地元の感情という機械的にはいかない部分があるという非常に難しい部分があります。このアンケートの結果の見方によっては幼稚園が廃止となっても良いかもしれないと。しかし、増やしてほしいといった回答があるのは、住民として何としてでも公立幼稚園は残していくべきだと、そういう立場での回答があったのではと考えたりもします。</p> <p>アンケートについては、檀原市民が就学前教育についてどういう希望を持っているかということを経験しています。ここで考えなければならないのは、公立私立がバランスをとってやってきたことと、3歳児保育実施についてはどうでしょうか。</p> <p>市の行政としたら、市民の希望するサービスは実施しなければならない。一方で今までの経緯から公立私立のバランスを取りながら住民サービスに努めないといけないという檀原市のよその市にない苦しさがあると思います。</p> <p>教育は箱物をつくればそれでいいというものではありませんので、中身で勝負するわけです。だから、どういうものをしていくか。</p> <p>それから、このアンケートは、私立の保育所も参考になるかと思えますけれども、いつごろから始めていつまでやるかとか、幼稚園の運営形態等についても参考</p>

	<p>になろうかと思えます。幼稚園に関わっては、私立の幼稚園はそれぞれ特色を出して、公立よりも幼稚園教育は進んでおられた感じが私はしていますが、公私共存の意味で、お互いに意見交換をしながら進んでもらえたらと思っています。</p>
委員	<p>2点質問です。1つは、樫原市のこども園の特殊な状況について、こども園にも分園型と一体型があるということですね。</p>
事務局	<p>そのとおりです。</p>
委員	<p>分園型の場合は、結局保育所で3歳まで行って、4・5歳は分園へ行くわけですね。施設が違うのですね。</p>
事務局	<p>はい。基本的には分園型というのは、保育所としての園と幼稚園としての園が分かれています。</p>
委員	<p>そこで保護者の方が希望をするわけですね。</p>
事務局	<p>はい。幼稚園として4歳、5歳で入園される方、それから保育所として0歳から5歳で入所される方がおられます。</p>
委員	<p>分園ですから、距離があるわけですね。</p>
事務局	<p>そうです。少し離れてあります。</p>
委員	<p>もう1点は、アンケートのほうで、待機児童が200名とありますが、解消したらまた出てきますよね。どの年も結局ゼロにはなかなかならず、ゼロになったと思ったらまた増えると。</p> <p>その見通しはどうでしょうか。この再編においては当面は200名を解消するという希望を持っておられるわけですね。</p>
事務局	<p>待機児童につきましては、国基準という考え方と潜在待機という考え方がございます。</p> <p>特定の園を希望せずに、どこの園でも行ければ行きますと言っていたのに待たないといけないという方が国基準の待機になります。特定の園を希望されて待機になっている方は潜在待機とありますが、今は国待機が5名程度でございまして、ほとんどの方は潜在待機になります。</p> <p>潜在待機児童ゼロに向けていろんな取組みを進めていこうと思っていますが、現在の200名が消えたとしても、新たな方は出てくる状況になろうかと思えます。</p>

	<p>ここ数年、待機児童が減少傾向に向かっていない状況ですので、早く減少傾向に向かって、新たな子育て世代の層が榎原市に移り住んでくれて、まちが活性化するような方向へ向かうことが望ましいと考えています。</p> <p>公立私立ともに抱える問題として、保育士がなかなか集まりづらいことがあります。こちらについては新しい施設を作って解消するというよりは、保育士の成り手に榎原市に来ていただくなどを考えています。</p>
委員	<p>その点、追加で質問です。幼稚園に勤めておられた方で保育免許も併せて持っておられる方が榎原市の保育士募集に応募が可能となるのですか。</p>
事務局	<p>今、保育免許と幼稚園免許、両方持っている方を公立のほうで募集しておりますし、私立のほうでも、恐らく両方お持ちの方を募集されていると思います。保育所という形でされている私立であれば、保育免許だけでも可能になるかと思えます。</p> <p>公立のほうは、先ほどから出ていますこども園という形で、両方一体的な形で運営していることや、保育所と幼稚園の人事異動もありますので、両方の免許を持っている方を募集している状況でございます。</p>
会長	<p>榎原市のこども園が最初にできたのは、国の制度として認定こども園ができる前にできました。その頃ほかの市でははじめ2園の統合の予定が、子どもたちが幼稚園をやめて、こども園に通いたいということで、全部で6つあった幼稚園が1つにまとまったことがありました。</p> <p>そこでは、幼稚園へ行く人は幼稚園へ行く、保育所に続けて行きたい人は、幼稚園の授業が終わった後、残ってその場所で保育所としてやっていく。朝早く行きたい人は早くから行ってという、施設1つでやっていると。保育所の先生も幼稚園の先生も同じ職員室で一緒にやっている。こういう少し変則的な方法がありました。幼稚園へ行っている子どもたちも、お母さん方が、今日はちょっと預かってほしいというときは、1時間くらいで保育をそこをお願いする。こういった他の市のやり方も背景にしながら、認定こども園とは異なるが、近いやり方でやっている榎原方式ができたという認識があります。</p> <p>いずれにしても、数をたくさんつくったやつをどういうふうにしてみんな満遍なく、統合しながら中身をもっと充実させるか、非常にしんどいところですね。</p> <p>その辺りのところで、保護者のニーズを聞いたらこんな状況であったと。だから、どうかじ取りをしていくか。その辺りが次のお話になってこようかと思えますが、ここまででご質問、ご意見はございませんでしょうか。</p>
委員	<p>私は、小学校5年生と1年生と2歳の子どもがおりまして、真菅幼稚園のほうに小学校5年の子どもと1年の子どもを通わせていました。そのときにずっとPTAの会長もさせていただいておりまして、令和元年度に幼稚園の中で保護者対象に幼</p>

	<p>稚園をどうしてほしいかというアンケートを取りました。</p> <p>その中で出たのが、3歳児保育を実施してほしいという意見です。そのほか、給食やお弁当の配送でもいいから実施してほしいという意見もありました。</p> <p>令和2年度に、真菅幼稚園では、急に4歳児が減っているのは、無償化の影響が大きいと思います。というのは、5歳児をずっと見ていただいても、平成27年のときに60人に減り、後ずっと36人、43人と減っています。それが、小学校へ上がると、真菅小学校だけで100人を超えます。校区内には子どもはいます。そこで、幼稚園に入らない理由というのは、3歳児保育がないこと。あれば真菅幼稚園でも公立の幼稚園へ入れたいけれども、ないので仕方なく、ほかの保育所とかこども園に入れて、離れていってしまう。</p> <p>その辺は、アンケートの中ではなかなか出てこないと思うんですけども、そういうふうなことも考えていただければと思います。</p>
会長	<p>お子さんを通わせている立場で、現場の意見を聞いていただいたと思いますが、そういう意見をどんどん出してもらって、行政がそれを聞いて反映していただけたら、この会の意義もあると思います。</p> <p>ほかございませんでしょうか。</p>
委員	<p>委員にお尋ねします。幼稚園と保育所と2つあるんですが、幼稚園を嫌がっている理由は何でしょうか。</p>
委員	<p>私個人の意見でよろしいですか。</p>
委員	<p>はい、結構です。</p>
委員	<p>私個人の意見ですが、私は地元の真菅幼稚園へ入れようと思って、小学校も公立に入れようと思っていたので、幼稚園に行っている子ども、友達同士がそのまま小学校に上がっていけること、それが一番だったと思います。</p> <p>一番いいのは、幼稚園区がそのまま小学校区。保育所とか校区が違うところに通わせると、小学校でばらばらになってしまう。その辺が私は一番強い思いで、近くの公立の幼稚園に入れさせました。もちろん、近くに保育所があれば、また変わっていたんですけども、幼稚園が5分ぐらいで行ける場所にありますので。</p>
委員	<p>地元で保育所がもしあって、こども園みたいになっていたら同じ校区の小学校に入学させるためには、近くの保育所機能のある幼稚園のほうが良いということですか。</p>
委員	<p>はい。</p>

委員	<p>ありがとうございます。今聞いたように、地元の中で育てていきたいという意見だと理解させていただいたんです。ですので、これから再編をやっていくためには、地元との関わりも多分いろいろ出てくるだろうと思いますので、それでお聞きしただけです。</p>
会長	<p>今、委員のお話について、昔は子育てというのは家庭でやるもので、ほかでやるものではないという認識がありました。もちろん、教育基本法とか、全ては教育の第一人者は親であると定義されていますから、親は逃げられません。ただ、最近、子どもを育てるという意味で、地域が子どもを育てている。これは、親が育てられるというのと、地域が子どもの教育に絡むというのと2つの側面があるような気がします。</p> <p>こういったことが言われ出したのは、最近近所の人でも子どもに無関心になってきた人が多いから、逆に言い出したんです。昔は黙っていても近所の人が、親に連絡するくらい、地域の人が子育てをしたような感じですが、最近それが、人の子は人の子ということで無関心になってきている部分がある。</p> <p>今言われている部分かもしれませんが、親と地域で子どもを見ましようと。そういうので、地域に幼稚園があるなら幼稚園に行かせたいというのは当然の話で、一番理想的な親の考え方だと思います。</p>
委員	<p>今会長はそうおっしゃいましたが、私はどちらかといったら、子どもを地域で育てたいと思っています。みんな自治会もそういう考え方で、全員大体共通している。</p> <p>これは、最近の社会情勢が厳しいために、学校で教育するときも、知らんおっちゃんとお話したらいけないというような、情勢ですから、つらいですね。</p> <p>実際我々は、近所の子どもやったら、自分の子でなくても怒りますよね、悪いことをすると。やはりその辺は、地域のおっちゃんの顔をしっかり見て、良い関係を築かなければいけない時代。それがどんどん逆行していっているというのは非常につらいことです。</p> <p>それと、第2こども園がうちの近くにあります。最初の頃はどうなんだと思っていただけれど、あれはなかなかいいと思う。</p> <p>選択肢が1つ増えている。今おっしゃったように、そのまま幼稚園に入るのも1つ、私立の保育所も1つ、選択肢が増える意味で将来こども園が7つになる、まあ一番いいのかなと思ってきています。</p>
会長	<p>選択肢が増えることについて、近隣の市で、幼稚園の統廃合をやりました。考え方がどうにもまとまらなくて、解決策としては、2月に3日間を確保し、それぞれ園の保育をお母さん方が自由に見に来て良いとした。実際に見て、うちの子はあそこの保育園にやろう、あそこの幼稚園にやろうと。</p> <p>そのときに保育内容や、どんな先生方がどんなことをやっているかということ、</p>

	<p>自宅と園の場所、いろんな比較で自由に校区なしで募集を受けつけて、人数の少ない幼稚園とか保育所は廃園になる。こういったことをやられていました。</p> <p>これは、園があつたら人は集まるという発想ではなく、しっかりとした保育であれば効果がある。今後はこういった時代になってこようかと思います。</p> <p>ものすごく選択肢が広がっていくと同時に、近所の子と一緒に手をつないで小学校へ行かせたいということもある。その辺のバランスを考えたら樫原市も最後はそれをやってもいいのではとも思います。ほかのことでございませんでしょうか。</p>
委員	<p>樫原市の保育所・幼稚園は、車で登園してもいいのですか。</p>
事務局	<p>幼稚園については、基本徒歩でお願いしています。こども園については、園区がありませんので、多くの方が車での送迎です。</p>
委員	<p>今いいことを言ってくれた。車で来るのは本当に危ないんです。駐車場があるのに、駐車場に止めず、園の前に堂々とずらっと並ぶ。それについて文句を言いたいけども、かわいそうな気持ちにもなるので、余り言わない。</p> <p>あれはやっぱりもう少しマナーを守っていただきたい。地域として。</p>
会長	<p>駐車スペースの問題等、送迎マナーの問題があるとのことですが、これは言われて初めて認識することと思うので、いろいろ発言いただけたらと思います。車での送迎については、関係者への周知が必要です。近所の人にしたら、危ないので生活を脅かされるということもあると思います。</p> <p>それでは時間も押して参りましたので、次に進みます。</p> <p>次の資料は現状を踏まえ、机上で適正配置するとしたら、どうなるかについてです。これは地元の感情意見を一旦おいておき、机上で事務的に考えたらこうなりますというようなことが記載されています。</p>
事務局	<p>資料説明</p> <p>【資料 04 適正配置を目指した対応策について】</p>
会長	<p>一つのシミュレーションとして現状を改善するためには、こうしたらよりうまくいくのではという案を提示、説明いただきました。</p> <p>これについては議論をしたいのですが、予定の時間が迫ってきていますので、次回にその中身について議論いただくこととして、これだけは聞いておきたい、あるいはこんなことを調べておいてほしいということを事務局のほうにお願いするような意見はございませんでしょうか。</p> <p>具体的な意見議論については、次回にお話し願います。</p>

委員	再編スケジュール案のところで、例えば、真菅北と耳成西が再編されるということですが、これは2園のうちのどちらに寄せていくとか、そういうイメージはもう事務局のほうでは持っておられるわけですか。
事務局	<p>このご審議の中でご意見をいただきたい点ではございますが、事務局としては、既存施設からの転換を目指しております。再編を実施したときに、認定こども園として整備するか、あるいは統合した幼稚園で3歳児保育や預かり保育を延長して実施した幼稚園として整備するののかといったことにもよると考えています。</p> <p>特に、認定こども園を整備していくためには、駐車場の用地確保や周辺道路状況、施設も大きな整備が必要になりますので、それらが実施できるのかどうかといったようなことを検討していく予定です。</p> <p>もちろん再編スケジュール案にも示しているとおおり、地元への説明から入ってきますので、その話し合いの中でも内容が変わってくるのかなと考えております。</p> <p>ただ、数字上から参考に申し上げますと、やはり既存施設を活用した再編を考えておりますので、それぞれの施設の保有教室数を基準に考えることになると思います。例えば真菅北幼稚園でしたら7教室、耳成西幼稚園では5教室、保有教室数が多いほうというのも一つの考え方だと思います。</p>
会長	具体的にどちらへ統合するのか、地理的条件、再編後の園の中身を幼稚園、保育所、認定こども園、どんな方向でいくか、そういう辺りでまた対応が変わってこようかと思っておりますので、その辺りのところを次回から深めていただけたらと思います。ほかございませんでしょうか。
委員	幼稚園の統合を考えておられますが、幼稚園は徒歩通園が基本ですよ。
事務局	そうです。
委員	であるなら、例えば、畝傍中学校区の畝傍東や、八木中学校区の晩成、香久山というのは、本当に歩いていける距離だと考えておられるんですか。
事務局	再編の際には、3歳児保育あるいは預かり保育、早朝などの導入も考えております。それから、認定こども園とするのであれば、駐車場の整備も考えております。幼稚園として整備する場合でも、おっしゃっていただいたとおおり、歩いてくるのが難しい広い園区になりますので、駐車場整備は必要と考えております。
委員	先ほどほかの委員もおっしゃっていましたが、各家庭の自動車、マイカーを利用するというのは、マナーの問題もあって難しいんじゃないのか、という考え方も

	<p>持っていただきたい。私らもまだ若い世代ですが、常識的でない少し非常識な振る舞いを平然とする方が増えている。</p> <p>であるなら、最悪の場合は、スクールバスの導入も検討していただかないと再編というのは厳しい。地元で受け入れてもらうのは厳しいんじゃないかと思う。香久山幼稚園から晩成幼稚園まで歩いたことがありますか。</p>
事務局	<p>ありません。もちろん、園児が歩くとは想定はしておりません。</p>
委員	<p>想定してないのであれば、先ほどの話に戻ります。</p> <p>自家用車を検討するのであれば、駐車場ではなく、安全に乗降できるロータリー、できないのであれば、スクールバス。これを一つの案として聞いていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>ご意見として、十分検討してまいりたいと思います。</p>
会長	<p>いずれにしても、幼児教育というのは、大人の教育でもありますが、やはり子どもが中心ですので、子どもが不便なく教育が受けられる、その保障をどうするかという観点で再編案をつくっていただけたらと思います。</p> <p>予定の時間が少し過ぎてしまいましたので、今日は説明を聞いたという形で、その議論は次回にお願いします。</p> <p>それでは、最後の4つ目の議題をお願いします。</p>
事務局	<p>資料説明</p> <p>【資料05 今後の検討スケジュールについて】</p>
会長	<p>このスケジュール表でいくと、次回第3回目は9月ですか。</p>
事務局	<p>9月末ごろで調整させていただきたいと考えております。また調整致しますのでよろしくお願いします。</p>
会長	<p>そういうことであれば、第3回は9月末、また調整はありますが、ご出席いただき、ご意見をいただけたらと思います。</p> <p>今日は案の説明をいただきました。こういった計画は、市内部では早いこと先を見て計画せよと盛んに言われますし、具体的にやるとしたら、机上の空論ではない計画として、地元からの公正なご意見を入れて具体化していくということが必要です。なので、皆さん方の建設的なご意見を頂く時期、というのは期限が迫ってきている。</p>

4. 閉会	<p>答申が遅れば遅れるほど事務局はしんどくなってくると思いますので、できるだけ早い時期に答申ができるように、ご協力のほどお願いしたいと思います。</p> <p>では、次回までに本日の資料を見直していただいて、また、この案に決定ではなく話し合いのための資料ですので、あくまでもこれは内部資料のつもりで、ご自分でよくご熟読いただき、次回ご意見をいただくということをお願いしておきたいと思えます。</p> <p>長時間にわたりご審議をいただきましてありがとうございました。</p> <p>次回の第3回の検討委員会につきましては、先ほどもご案内いたしました、9月30日の水曜日で調整をいただきたいと思えます。ご都合の悪い方が多数おられましたら、再度調整いたしまして、その結果をまた後日皆様にお知らせさせていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、本日の検討委員会の議事録の署名委員につきましては、天根会長と松井委員となりますので、議事録の作成後、署名のお願いをさせていただきます。</p> <p>以上をもちまして、第2回檀原市保育所・幼稚園適正配置検討委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">《終了》</p>
-------	--